

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 溪仁会	代表者	谷内 好	法人・ 事業所 の特徴	札幌市で定山溪に次ぐ高齢化地域である、青葉地区に位置する単独型事業所である。利用者の方6割以上が独居の方で、認知症を有する割合も高い。その状況下で地域の方々、主治医との連携を重視し、今までしてきた生活に寄り添った支援を柔軟に展開しています。住み慣れた自宅、地域での生活の限界点を引き上げることが出来るように、個別機能に応じた自立支援を行っている。
事業所名	小規模多機能型 居宅介護あおば	管理者	大沢 庸輔		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	1人	0人	1人	1人	1人	3人	4人	12人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	A1~4について 事業所自己評価の各項目での改善計画に準じる。 A-1について 今回はパート職員も自己評価に参加してもらおう。自己評価を生かし、個々のスキルアップにつなげて行く。	スタッフ自己評価については、全職員が参加。自分を振り返る事に繋がった。 他、取組み、結果については事業所自己評価、ミーティング様式の各項目に準じる。	スタッフ全員で、振り返りが行われていて、充分検討されている事が、確認できた。	事業所自己評価の各項目での改善計画に準じる。
B. 事業所のしつらえ・環境	B-1について .外の掲示板を活用して、広報をして行く。 B-4について 地域の方が自由に入出りできる場所を目指す。 そうすることで、地域の方の目が行き届き安心できる拠点となる。 (地域の目をセキュリティとする)	外の掲示板の活用はされていない。	自由に入出り出来る場所として、定着してきていると思う。	広報活動を継続する。 事業所に入りやすいように、玄関周りの外観を整え、明るい環境作りに努める 事業所内のしつらえも、見直す。 利用者様の会話が広がるように、ギャラリーや趣味のコーナーを作る。
C. 事業所と地域のかかわり	C-2について ホームページ等でサービスの内容等、知ってもらう。 C-4について .地域の行事に継続して、参加して行く。	町内会に入り、回覧板も届くようになった。 ホームページを定期的に更新している。	相談できる場所として定着する為には、時間の経過が必要。 事業所で定期的に、講演会等を開催すると良いのでは？ 地域でのアピールが必要と思う。	ホームページや掲示板等でサービスの内容を知ってもらう。 回覧板にて、確認し、地域の行事や集会に参加して行く。

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	D-4 について 職員それぞれの視野が広がり、支えていけるように、経験や技術を向上できる取り組みをして行く。 地域の困りごとや、地域とつなぐ役割をはたせるよう、事業所全体のスキルをあげていく。	児童館との交流、地域包括との連携を定期的に行っている。 職員の視野が広がり、経験を沢山できるよう取り組んだ。 地域の生活を支える取組みについて、不十分ではあるが、個々が体験出来たと思われる。  登録利用者様中心の関わりから、今後は地域の方とも関わって行けるようにして行く。	民生委員、町内会長さんと共に支援しているのは良い。 24時間開いているので、地域の方々の情報が24時間得る事ができるようになった。 夜も電気が付いているので、安心。相談も出来る。	職員それぞれの視野が広がり、支えていけるように、経験や技術を向上できる取り組みを続けていく。 地域の困り事を、地域とつなぐ役割を果たせるように、事業所全体のスキルを向上させていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	E1～4について 会議に出席される方も、事例を持ち込めるような、関係作りに努める。事例検討や学習会の実施。 利用者様の参加等メンバーを広げて、多様な意見を頂き、運営にいかして行く。	関係作りに努めているが、まだ、事例検討など一緒に取り組めていない。 運営推進会議を生かした取組みに、いたっていない。 予防センター、他事業所の方の参加は広がったが、地域の方の参加が少ない。	具体的な取組みが、見られなかった。	会議に出席される方も、事例等持ち込めるような、関係作りに努める。 認知症について、学習会の実施。 会議メンバーとして、本人・家族・地域の方の参加を勧めていく。
F. 事業所の 防災・災害対策	F1～4について 夜間訓練の実施。 風、水、地震時の防災計画の立案。 AEDの設置場所の変更、救急法の学習。 地域の訓練に参加できるよう消防団の方へ依頼する。	地域の防災訓練への参加は出来なかった。 夜間を想定した訓練を実施。 AEDの設置、救急法の講習会に参加。 消防団の方への依頼は来ていない。 スプリンクラー工事が開始された。	災害時の避難所として、機能できると良い。 訓練は、繰り返し行う事が必要。	夜間を想定した訓練の定期的な実施。 防災計画の定期的な見直し。 外部講師による、救急法の開催。  備蓄や災害時の対応をマニュアル作成する。